

連載

株式評論家 山本伸一の

兜町スタンダード

指数浮上はサマールアリー到来の狼煙



重要イベントとなっていた欧州政策協議を順調に消化、外部要因好転とともに東京市場にもリスク選好の流れが戻ってきている。日経平均株価は先週末に大台90000円を回復。暦も7月入り、夏相場の到来とともにサマールアリー突入も予感させる相場環境となった。

前回コラムでは「イベント通過後は『ボーナスステージ』に？」と題して、イベント消化とともに「買い易い」相場の到来を想定していたが、先週提供したボーナステーマを題材としたレポート銘柄では、早くも新日本理化（4406）、モブキャスト（3664）が目標株価となる10%上昇率を達成するなど、相場反転タイミングを「ボーナスステージ」に変えた方も多かったのではないかと。

振り返ってみると、相場の下抜けにつながったのは、4月末の日銀金融政策決定会合での出尽くしか75日移動平均線割れではないだろうか。このまま市場参加者の思惑を反映した75日移動平均線奪回を果たせば、投資家心理もより強気に傾いてこよう。相場付きが変わるとなると、これまでの投資戦略、銘柄選定をもう一度見直しておくべきだ。

そこで弊社では、夏相場・サマールアリーを題材とした「厳選5銘柄付き緊急市況レポート」を発売することにした。厳選銘柄やレポートに興味を持たれた方は、弊社に直接問い合わせしてほしい。